

# 第1回釧路市教育推進基本計画策定委員会

日 時：令和4年6月28日（火）15：00～17：00

場 所：釧路市生涯学習センターまなぼつと幣舞 特別会議室801

出席者：別添座席表のとおり

関係資料：・釧路市教育推進基本計画策定委員会委員名簿

・釧路市教育推進基本計画策定委員会設置要綱

・資料1 現計画の位置付け

・資料2 策定スケジュール

・資料3 計画策定にあたっての論点

・資料4 令和3年度進捗状況

・資料5 各施策の検証について

・資料6 施策の体系

・意見提出シート

※資料4及び資料5については、未公表の数値のため非公開

## 1. 開 会

## 2. 委嘱状交付

岡部教育長より委員21名のうち20名へ委嘱状を交付。

## 3. 教育長挨拶

- ・本日、皆様に委嘱状を交付させていただき、学校教育を巡る関係機関の皆様に、一堂にお集まりいただいたという印象を強く持っている。大変お忙しい中、この教育推進基本計画策定委員会へのご参加、ご承引について、感謝を申し上げたい。
- ・5年計画の2期目が今年度を以て終了するというので、今回、次の第3期の計画を今年度いっぱいかけて、策定をしていただくという趣旨である。皆様には、次の5年間を見通していただきながらという策定作業になる。
- ・6月の釧路市議会においても、釧路市教育推進基本計画に関わる質問を多く受けた。質問の一部を紹介すると、1期目、2期目の基本計画を通じて掲げた、小中学校の平均正答率について、全国・全道平均を超えるという大目標が未達成であるという指摘、そして、次期計画の目標をどのように設定するのかという内容であり、私からは、この達成しきれていない大目標は引き続き持ちたいこと、更に、もう一つの重要な課題である学校毎の格差解消についても、目標として加えたいことをお伝えした。また、私の想いとして、策定委員会での議論を経てということになるが、学力向上、不登校、特別支援教育の充実、この3点を重点的な課題として位置付けていきたい旨のお話もさせていただいた。
- ・加えて、別の場で策定作業を進めている「釧路市がめざす学校のすがた基本計画」については、小中一貫教育を推進し、施設一体型の義務教育学校を設置していくという方向性のもとに議論を進めているところであるが、この計画と「釧路市教育推進基本計画」は、連動する項目が相当あると捉えており、この3期目の計画策定の議論は、かなり難しいものになるのではないかと認識している。

- ・皆さまには、ご苦勞、ご負担をおかけするところであるが、釧路市の子ども達の為に、学校はどうあるべきか、学校教育をどうすべきか、そのような視点で、忌憚ないご意見、ご提言、ご提案を頂戴できればありがたく思っている。

## 4. 委員及び事務局紹介

## 5. 委員長・副委員長の選出

委員長に早勢委員、副委員長に濱口委員が選出された。

## 6. 議 事

### (1) 策定の進め方について

○事務局より、資料1・資料2・資料3を使用し説明。

#### ◆事務局

・資料1・資料2・資料3について説明。

⇒⇒ 各委員から意見・質問等なし。

### (2) 現計画の検証結果について

○事務局より、資料4・資料5・資料6を使用し説明。

#### ◆事務局

・資料4・資料5・資料6について説明。

#### 【以下、質疑応答】

#### ◇委 員

・意見提出シートを記載するため参考としたいのだが、学力の伸び悩みについて、目標達成校と未達成校では、どのくらいばらつきがあるのか。特定の学校名は出せないと思うが、それらの具体的な検証結果の資料は、今後、提示されるのか。

#### ◆事務局

・学校名等の公表は難しいが、達成目標に対するポイント区分ごと学校数は提示できるかと思う。

#### ◇委 員

・検証結果があると、今後の策定委員会においても意見の提出がしやすい。

#### ◇委 員

・不登校対策について、現行の計画策定時では「不登校を理由とする欠席が年間30日以上の児童生徒の出現率」は、ほぼ目標達成されていたが、平成30年から令和3年に至るまでの数値の伸び率が右肩上がりとなっている現象は、他の検証と考察項目では見られない。不登校児童は、病気や経

済的理由を除き、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因を理由としていると思うが、この伸び率の増加について、新型コロナウイルス感染症との関連性を含め検証しているのか伺いたい。

#### ◆事務局

- ・例えば、新型コロナウイルス感染症に罹患すると出席停止となり、生活リズムが崩れたり、外出への不安が増すと言った事がある。新入生の段階でそうなった場合、友達を作る機会が失われてしまう。また、マスク生活の影響で表情がわからなく、子ども達相互の意思疎通が難しくなること等、かなり影響しているのではないかと考えている。

#### ◇委員

- ・今までは、不登校と言うと、いじめを中心としたものが多かったが、心理的な部分での新たな手厚いケアが必要になってくるのが今回の議論のポイントであることを再認識した。

#### ◇委員

- ・国際理解教育について、「中学校英語科における授業での発話をおおむね英語で行っている英語担当教員の割合」が、現行の計画を策定した平成29年度の数値4.5%から、令和3年度には56.5%まで伸びた理由として、新たに配置された外国語教育アドバイザーの存在が大きいと思われるが、具体的にどのような指導をされたのか伺いたい。また、英語を使った授業がどの程度求められているかを踏まえると、目標数値とした30%が、本来、正しいものだったのかとも思う。
- ・国際理解教育は、互いの文化や考え方、処方の違いなどを知ることによって視点が広がっているため、指導項目に、その点を問う項目があった方が、より子ども達の国際理解教育への興味の実態を把握できるのではないかと考える。

#### ◆事務局

- ・外国語教育アドバイザーについては、中学校の英語の授業を観ていただいた中で、課題を提示いただき、次の機会に、その課題の達成具合を確認するなど、少しずつ先生達の意欲を高めている。今年度は、小中連携を視野に入れ、中学校の授業の場に小学校の先生も来てもらいアドバイスを行うという、小中両校の外国語の繋ぎもしてもらっており、その中で英語を使うという先生方の意識が高まっているのではないかと考える。
- ・現行指標である「ALTを活用した授業数」については、予算的な面もあり、着任する人数が決まっている中で、達成率を伸ばすことは難しい部分があることから、指標の工夫が必要と考えている。
- ・現行の計画の目標数値について、次期計画でも指標として残す場合には、もう一度検証しながら、整理したい。

#### ◇委員

- ・特別支援教育が始まって15年くらいになるかと思うが、「個別の指導計画」や「個別の支援計画」という言葉は、随分、一般化されたと思っている。しかし、現場においては、それらの計画を作成することが第一の目的になっており、本来の目的であるはずの、計画によって授業が変わるという状況になっていない。形として、作成が進んでいるが、授業の中で活かされていくことが、一つの

課題だと思っている。

- ・特別支援教育を学ぶ子ども達がどこで学ぶかということは、就学指導の関わりがあり、大人たちがどのような未来図を描いているかに関わる。その観点から、特別支援教育について考えてもらえると、道立校として、サポートの仕方に工夫ができると思っている。

#### ◇委員

- ・幼小連携の重要性について、近年は、小学校への引継ぎの形も整ってきており、中身の濃い、子ども達一人一人の引継ぎができ始めていることを実感している。幼稚園、小学校、その上と、教育は続いていくものなので、幼稚園ではアプローチカリキュラム、小学校ではスタートカリキュラムなど、お互いに、日々の教育の場の様子を活かし合っていくことが深まると、子ども達の円滑な接続に繋がりが、それらが今後の計画に反映されていくのが望ましい。

#### ◇委員

- ・キャリア教育に講師として参加をした経験から、リモート対談は便利ではあるが、伝わりづらい部分もあると思う。依然として、新型コロナウイルス感染症への不安はあるが、そろそろ、普段通りの学習の場、キャリア教育の機会の場を、少しずつでも通常に戻していかなければならないと実感している。このことを釧路市教育委員会への要望としたい。

#### ◇委員

- ・釧路市立小中学校のあり方検討委員会に私は委員として参加させていただいている。「釧路市立小中学校のあり方について 第2次中間報告」では、学校段階間を超えた連携が大切であり、小中一貫教育を推進し施設一体型の義務教育学校を設置する重要性を報告した。その後、その内容を踏まえた将来的な年次も記された「釧路市がめざす学校のすがた基本計画（たたき台）」を教育委員会で作成した。全ての課題を一度に解決できる施策はなかなかないが、現状の釧路市が抱える教育上の課題を、今回作成した「釧路市がめざす学校のすがた基本計画（たたき台）」の案を実行していけば、現行施策を推し進めるより大きく改善が図られることと思う。
- ・例えば、中学校に来て数学の成績が下がるという話があるが、義務教育学校になったら小学校6年生から中学校1年生になった時に、見えていない課題と、これまでは半分程度しか見えていなかった課題が、連携することにより解消にかなり近づけるものと思っている。
- ・阿寒湖義務教育学校は、4-3-2というシステムを採用しており、5、6、7年生を一つのくくりとして、いわゆる中1ギャップに対応した教育課程で進めている。近隣では、白糠の庶路学園、根室管内の計根別学園でも同様のシステムを採用しており、学力面で成果が表れている生徒もいると聞いている。
- ・小中一貫教育のシステムを使った教育に取り組むことにより、子ども達により良いものを与えられ、釧路市教育委員会から説明された課題の幾つかの解消が大きく望めることと思う。

#### ◇委員

- ・キャリア教育の進捗状況について、平成29年度に現行の計画の目標を策定した当時から5年の間に、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、リモートの活用等、取組内容が大きくシフトチェンジされた中で、令和3年度の進捗の数値が、納得のいくものなのか、それとも、もう少し頑張れたもの

なのか、気になるところではあるが、リアル開催ならもう少し効果が出せたのではないかと考える部分もあり、今後5年間を考える上で意見の出し方が難しいと感じた。

- ・「第3期釧路市教育推進基本計画」と「釧路市がめざす学校のすがた基本計画」は、連動する項目が多く出てくると思うが、両計画における向こう5年間の内容の擦り合わせについて、どこまで意識して考える必要があるのだろうか。

#### ◆事務局

- ・今後、「釧路市がめざす学校のすがた基本計画（たたき台）」の地域説明会を7月中に行っていく。ここで出た地域の皆様からの意見は、次回の策定委員会で委員の皆様の説明ができると思っている。相互の意見を報告し合いながら進めていくのが望ましいと思っている。

### (3) その他

- 事務局より、別添資料「意見提出シート」の記載方法や提出方法等について説明。

## 7. 閉 会